

微生物殺虫剤

ボタニガード水和剤

ボーベリア バシアーナ乳剤

有効成分:ボーベリア バシアーナ GHA 株 分生子 4.4×10^{10} 個/g

登録番号:第 23069 号

性状:類白色水和性粉末

有効年限:1 年

※本剤は入手後冷凍はさけ、食品と区別して、冷暗所(約 5℃)に密封して保管すること。

包装:500g×12 袋 アルミ袋包装

【特 長】

- ＊本剤の有効成分 ボーベリア バシアーナは、広範な害虫に寄生するカビの仲間です。
- ＊微生物殺虫剤であり、マルハナバチ、ミツバチ、天敵などへの影響が少なく、環境に優しい剤です。
- ＊コナジラミ類やアザミウマ類に、従来の化学農薬と同等の高い防除効果を発揮します。
- ＊水和性タイプで、天敵への影響がさらに低減されています。
- ＊コナジラミ類他、複数の害虫に寄生する昆虫病原性糸状菌(ボーベリア バシアーナ)を利用した防除のため、薬剤抵抗性の発達した害虫に対しても優れた効果を発揮します。
- ＊ボタニガード散布後、好条件下では感染した死亡虫の体表面に白いかびが生えるので、効果が目で確認できます。
- ＊JAS法に適合し、農薬散布回数にカウントされませんので、有機栽培・特別栽培農産物でも使用可能です。

【適用病害と使用方法】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ボーベリアバシアーナを含む農薬の総使用回数
野菜類 (施設栽培)	コナジラミ類 アザミウマ類 アブラムシ類	1000倍	100～300L /10a	発生初期	—	散布	—

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ボーベリアバシアーナを含む農薬の総使用回数
トマト ミニトマト	コナジラミ類	10g/10a/日	発生前 ～ 発生初期	—	ダクト内投入	—
野菜類	コナジラミ類 アザミウマ類	300g/10a			散布	

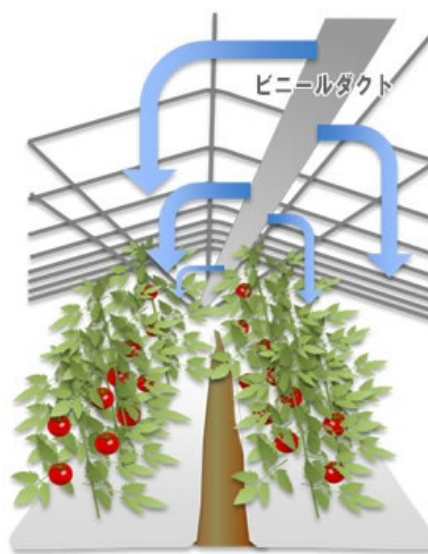
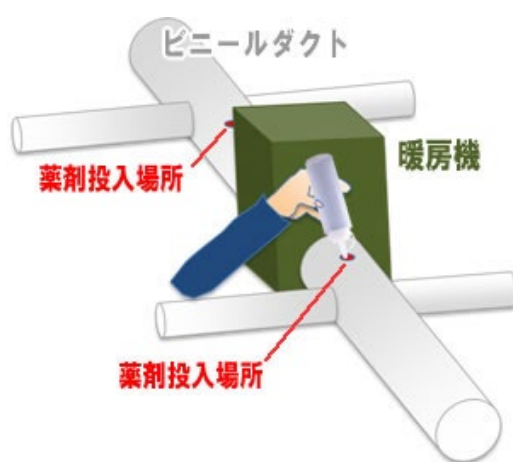
【上手な使い方】

- *糸状菌は湿度を好みます。散布後15～24時間は80%以上の湿度を保ちましょう。
梅雨時期、秋雨期等の長雨が続く時期はより高い効果が得られます。乾燥期は、夕方に散布して、施設のサイドを閉め切ってください。低温期は使用をさけ、18～28度の温度期に使用しましょう。
- *十分な効果を得るため、散布は7日間隔で3～4回行いましょう。。
- *葉裏や花、生長点等の害虫の生息場所に薬剤が十分かかるように散布しましょう。
- *他の薬剤との混用は十分に効果が発揮されない場合があるので注意してください。
- *効果が発現するまで1週間～10日程度必要となりますので、害虫の発生初期にご使用ください。
- *天敵殺虫剤あるいは微生物剤との組み合わせにより高い防除効果が期待できます。

【ダクト内投入とは】

- *ボタニガード水和剤を粉のまま、暖房機の送風用ダクトの風を利用してハウス内全体に飛散・循環させます。
- *毎日(1ヶ月)継続することで、ボーベリア バシアーナ菌がムラなく、隅々まで定着します。
- *ボタニガード水和剤は、粉の状態で使用すると塊が生じやすいので、ダクト内投入で使用する場合、茶こし等でふるってから、ご利用ください。

ダクト内投入例



⚠【使用上の注意事項】

- *使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- *本剤は入手後冷暗所に保存し、開封後は早めに使いきること。
- *散布液の調製は、まず本剤の所定量に少量の水を加えてクリーム状になるまで十分かき混ぜ、高温や直射日光をさけられる場所で2～4時間静置し、その後に所定量の水を加えて十分かき混ぜること。
- *本剤の有効成分は生菌であるので、散布液調製後はそのまま放置せず、できるだけ速やかに散布すること。
- *他剤との混用は効果が十分に発揮されない場合があるので注意すること。

- *高濃度で使用すると、トマト、なす及びキャベツの葉に褐色斑点を生じる薬害が発生することがあるので、希釈倍数を厳守すること。
- *本剤の5回以上の連続散布は、薬害が発生することがあるので、さけること。
- *本剤の効果を十分に発揮させるためには、害虫の発生初期に散布を開始し、散布液は特に葉裏にかかるようにし、7日程度の間隔で、合計3～4回散布すること。また、ある程度の湿度を必要とすることから、夕方等湿度を確保できる条件下で散布すること。
- *ダクト内へ投入する場合は以下のことに注意すること。
 - ① 1ヶ月当り300g/10aになるよう、暖房機などのダクト取り付け口付近からダクト内に投入すること。
 - ② 暖房機などが数時間以上運転される条件下で使用する。
- *本剤300g/10aを散布するときは、ハウス等の施設内で散粉機やブロワー等風による処理で実施すること。
- *本剤に対して高い殺菌活性を持つ薬剤があるので、本剤の使用期間中に他剤を処理する場合には十分に注意すること。
- *蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- *ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ① ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
 - ② 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設での使用はさけること。
 - ③ 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- *本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期及び使用方法を誤らないように注意し、適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意事項】

- *本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
 - *本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。
付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
 - *使用の際は保護眼鏡、農業用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。
作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
 - *作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
 - *かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
 - *ダクトによる散布の際は、送風停止中に本剤をダクト内に投入すること。
 - *ダクトによる散布中はハウス内へ入らないこと。また、ダクトによる散布終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室すること。
 - *ダクトによる散布後にハウス内で作業する際は、送風機を作動させないこと。
 - *夏期高温時の使用をさけること。
- 保管…本剤は入手後冷凍はさけ、食品と区別して、冷暗所(約5℃)に密封して保管すること。